

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/11/01

引き続き主要国の株価動向をにらみながら

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	RBAは当面金利据え置きか 予想レンジ: 77.40 ~ 85.60 円	2-3
NZドル/円	➡	手掛かり材料難で主要国の株価にらみか 予想レンジ: 60.10 ~ 66.20 円	4-5
ランド/円	➡	SARB理事会での声明に注目 予想レンジ: 9.10 ~ 10.50 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



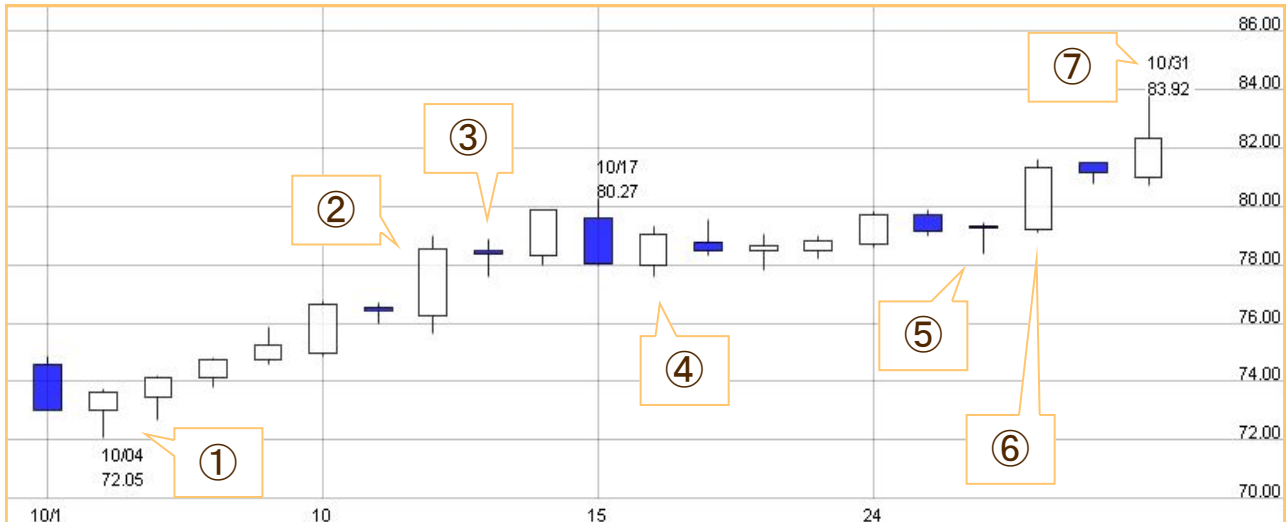
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	74.59円	83.92円	72.05円	82.34円



- ① 4日、RBA理事会の声明文で「インフレ見通しが低下すれば利下げの余地がある」と伝え、豪ドル/円は下落。その後、ギリシャ国債を保有する欧州金融機関の信用不安問題を背景にリスク回避の動きが強まり、NYダウ平均が下落すると、一時昨年5月以来の安値水準となる72.05円を記録。ただ、引け間際に一部で、「EU(欧州連合)の財務相らは域内の銀行のための緊急の追加支援策として、資本増強で協調する手段を検討」と報じられた事が好感され、NYダウ平均が400ドル近く反発してプラス圏に上昇すると、豪ドル/円は急騰した。
- ② 12日、豪下院にて炭素税法案が可決され、豪州の資源関連企業の収益が圧迫されるとの見方から、豪ドル/円は一時75.65円まで下げた。しかし、早朝に否決されたスロバキアでの欧州金融安定ファシリティ(EFSF)機能拡充案について、同国最大野党の党首が「遅くとも14日までに拡充案を承認する事で各党が合意」と伝えた事から、市場では同案承認に対して楽観的な見方が広がり、欧米株が上昇。豪ドル/円はこの流れを受け、一時78.97円まで上昇した。
- ③ 13日、豪9月雇用統計は失業率が5.2%、新規雇用者数は2.04万人増といずれも予想(5.3%、1.00万人増)よりも強い結果となった。これを受け、豪ドル/円は一時78.89円まで値を上げた。
- ④ 18日、RBA議事録が公表され、「インフレ見通しは2-3ヶ月前より懸念が緩和した模様」など、第3四半期CPIが下ブレた場合は利下げ余地が広がるとの見方が示され、豪ドル/円は下落。欧州市場では、早朝の仏格付け見直し引き下げ報道を蒸し返して欧州株が下落すると、豪ドル/円は77.60円まで下げた。
- ⑤ 26日、豪第3四半期CPIは前期比+0.6%、前年比+3.5%と、いずれも予想と一致。しかし、基調インフレ率は前年比+2.45%と前回(+2.70%)より低下、市場では次回RBA理事会での利下げ観測が強まり、豪ドル/円は下落した。その後EU関係者が、ギリシャ債損失を巡る銀行団とEUとの協議は行き詰まっているとの見解を示した事が嫌気され、78.37円まで一段安となった。
- ⑥ 27日早朝、ユーロ圏首脳会議の声明草案として「EFSFは数倍のレバレッジを計画」等が伝えられた事や、同日の東京市場で、ユーロ圏首脳会議にて、債務危機の包括的対応策が合意した事を受け、主要国で大幅な株高が進行すると、豪ドル/円は一時81.59円まで上昇した。
- ⑦ 31日、政府・日銀による円売り介入を受けてドル/円が4円近く急騰すると、連れて豪ドル/円は8月4日以来となる83.92円の高値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

10月の豪ドル/円相場は72.05円～83.92円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約10.5%の上昇(豪ドル高・円安)となった。月初に2010年5月以来となる安値水準を記録するも、その後は緩やかな反発が続き、31日の円売り介入も重なると、豪ドル/円は一段高となった。

11月の豪ドル/円相場は、後述の2つの問題を中心に、これらの反応を受けた主要国の株価動向が相場を左右しそうだ。第一に、現状では欧州の債務不安がくすぶっている点である。たとえばギリシャ支援について、ヘアカット率やEFSFの運用方法などの詳細が未定となっており、今後の火種となる可能性がある。この問題が取り上げられる場合、豪ドル/円はリスク回避の動きから売り優勢の展開が予想される。次に、米国では追加量的緩和観測が浮上している点である。緩和期待が高まる場面では主要国の株価や資源価格の上昇が予想され、豪ドル/円はリスクを積極的に取る動きから買われやすい。

11月1日、RBA理事会は政策金利の0.25%利下げを決定したが、声明文では追加利下げを示唆する内容は含まれなかったことから、豪ドル/円の下げは限定的となった。当面の間、RBAは利下げの効果を見極めるものと推測され、世界的な景気見通しに大きな変更が無ければ、政策金利は当面の間、据え置かれるものと予想される。このため、今月発表が予定されている豪州の経済指標について、RBAの政策金利の見通しにまで影響する可能性は低いと見られ、市場の反応は発表直後に限られることも考えられる。(川畑)

(予想レンジ:77.40～85.60円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

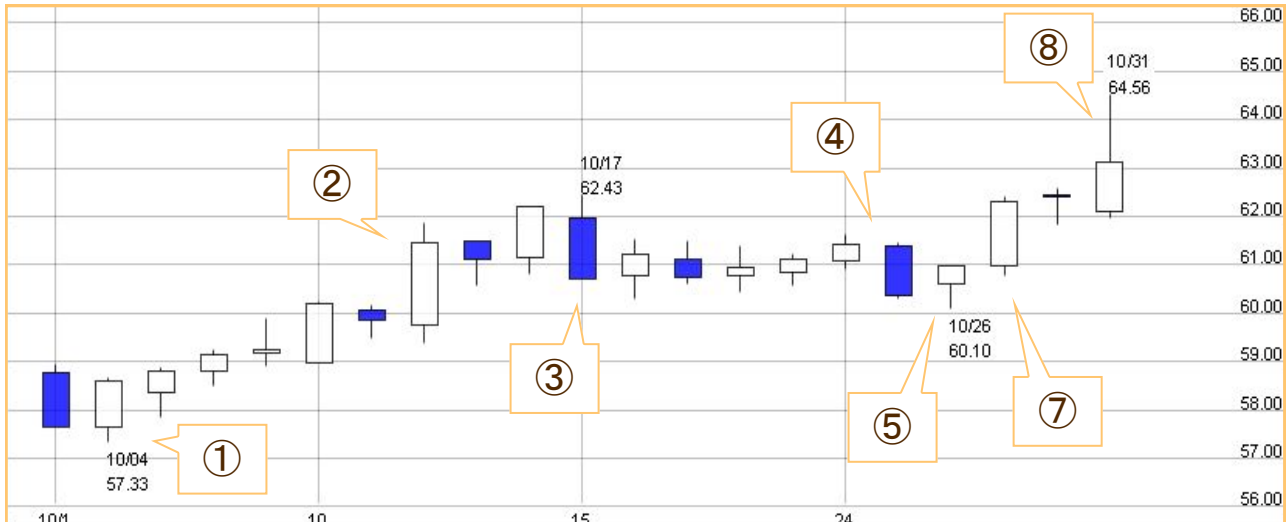
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	第3四半期豪住宅価格指数	11/9(水)	10月中国消費者物価指数
	RBAキャッシュターゲット	11/10(木)	10月豪雇用統計
11/2(水)	8月豪住宅建設許可件数	11/15(火)	RBA議事録
	米FOMC(1日～)		9月米小売売上高
	バーナンキ米FRB議長会見	11/22(火)	第3四半期米GDP・改定値
11/3(木)	豪第3四半期、9月売上高	11/23(水)	米FOMC議事録
	ECB政策金利発表	11/30(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)
	ドラギECB総裁会見		
	G20首脳会議(～4日)		
11/4(金)	9月米雇用統計		
11/8(火)	9月豪貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

NZドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	58.78円	64.56円	57.33円	63.12円



- ① 3日未明、ギリシャ政府は2012年予算案にて、2011年の財政赤字の対GDP(国内総生産)比が、第2次支援の前提(7.6%)を大幅に上回る8.5%に達するとの見通しを示した。これによりギリシャのデフォルト懸念が強まり、欧州金融機関の信用不安問題に拡大。リスク回避の動きから主要国株価が軒並み下落すると、4日にNZドル/円は今年3月以来の安値水準となる57.33円まで下落。ただ、引け間際に一部で、「EU(欧州連合)の財務相らは域内の銀行のための緊急の追加支援策として、資本増強で協調する手段を検討している」と報じられた事が好感され、NYダウ平均が400ドル近く反発してプラス圏に上昇すると、NZドル/円は反発した。
- ② 12日、早朝に否決されたスロバキアでの欧州金融安定ファシリティ(EFSF)機能拡充案について、同国最大野党の党首が「遅くとも14日までに拡充案を承認する事で各党が合意」と伝えた事から、市場では同案承認に対して楽観的な見方が広がり、欧米株が上昇。NZドル/円はこの流れを受け、一時61.85円まで上昇した。
- ③ 17日、欧州の信用不安や世界景気の減速に対する過度の懸念が後退した事を背景に欧州株が上昇すると、NZドル/円は一時62.43円まで上昇した。ただ、欧州市場に入り、ギリシャの債務危機の解決に否定的な発言が相次ぎ、欧米株が下落。さらにNYダウ平均が引けにかけて下げ幅を拡大すると、NZドル/円も下落した。
- ④ 25日、NZ第3四半期消費者物価指数は前期比+0.4%、前年比+4.6%と、いずれも予想(+0.7%、+4.9%)を下回った。これを受け、NZドル/円は発表直後に30銭以上急落して61.14円まで下げた。
- ⑤ 26日の引け間際、NZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の2.50%据え置きを決定。その際の声明では、「国内経済は緩やかなペースで拡大」「国内の圧力は将来の利上げを必要とする」など、国内景気に対して楽観的な見通しが示された事から、NZドル/円は上昇した。
- ⑥ 27日の東京時間、ユーロ圏首脳会議にて債務危機の包括的対応策が合意した事を受け、アジアを始め主要国で軒並み上昇すると、この株高に連れてNZドル/円は上昇した。
- ⑦ 31日、政府・日銀による円売り介入を受けてドル/円が4円近く急騰すると、連れてNZドル/円は9月9日以来となる64.56円の高値をつけた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

10月のNZドル/円相場は57.33円～64.56円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約7.5%の上昇(NZドル高・円安)となった。月初に3月以来となる安値水準を記録するも、その後は緩やかな反発が続き、31日の円売り介入も重なると、NZドル/円は一段高となった。

11月のNZドル/円相場は、後述の2つの問題を中心に、これらの反応を受けた主要国の株価動向が相場を左右しそうだ。第一に、現状では欧州の債務不安がくすぶっている点である。たとえばギリシャ支援について、ヘアカット率やEFSFの運用方法などの詳細が未定となっており、今後の火種となる可能性がある。この問題が取り上げられる場合、NZドル/円はリスク回避の動きから売り優勢の展開が予想される。次に、米国では追加量的緩和観測が浮上している点である。緩和期待が高まる場面では主要国での株高や資源価格の上昇が予想され、NZドル/円はリスクを積極的に取る動きから買いが入りやすいと見られる。

一方、今月のNZ国内では、金融政策の発表が予定されておらず、市場で来年3月と6月とで意見が分かれているNZの利上げ開始予想について、今月予定されている経済指標からは、その手掛かりを得られない可能性が高い。また、先月の金融政策発表の際、ボラードRBNZ総裁は「世界のリスクを考慮すれば金利据え置きが賢明」と述べており、金利動向を左右するのはNZの景気動向よりも、欧米を始め主要国の景気動向次第の様子である事からも、11月のNZドル/円はNZ国内の動向よりも株価にらみの展開となりそうだ。(川畑)

(予想レンジ: 60.10～66.20円)

今月の注目材料

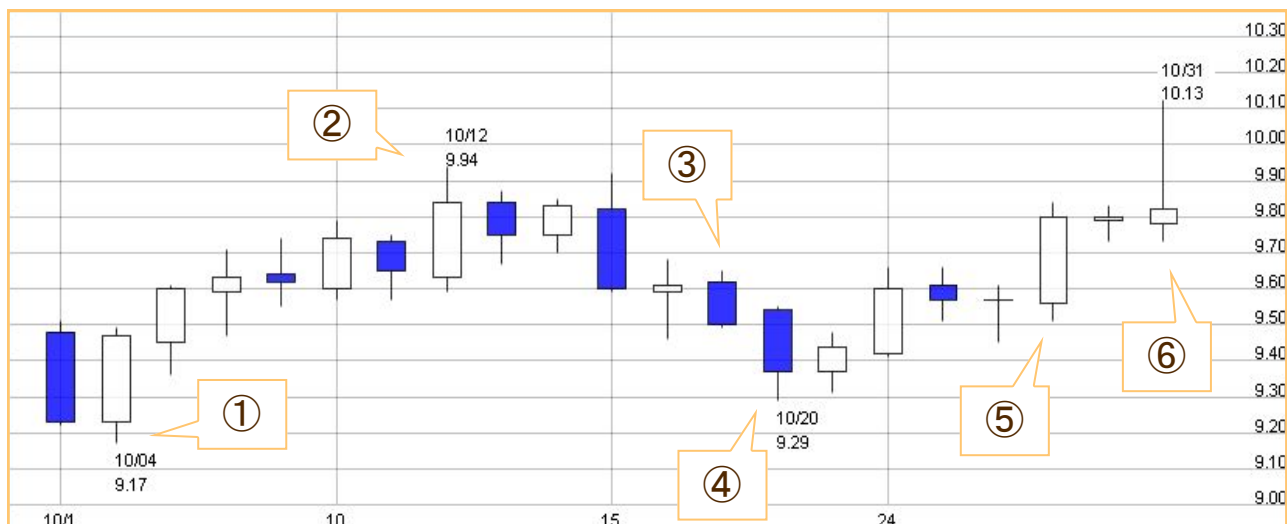
※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	RBAキャッシュターゲット	11/15(火)	9月米小売売上高
11/2(水)	米FOMC(1日～)	11/17(木)	第3四半期NZ生産者物価指数
	バーナンキ米FRB議長会見	11/22(火)	RBNZインフレ期待(2年間)
11/3(木)	第3四半期NZ失業率		第3四半期米GDP・改定値
	ECB政策金利発表	11/23(水)	米FOMC議事録
	ドラギECB総裁会見	11/24(木)	10月NZ貿易収支
	G20首脳会議(～4日)	11/30(水)	10月NZ住宅建設許可
11/4(金)	9月米雇用統計		米地区連銀経済報告(ページブック)
11/9(水)	10月中国消費者物価指数		
	RBNZ金融安定レポート		
11/14(月)	第3四半期NZ小売売上高指数		

ZAR/JPY

ランド/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.48円	10.13円	9.17円	9.82円



①

3日未明、ギリシャ政府は2012年予算案にて、2011年の財政赤字の対GDP(国内総生産)比が、第2次支援の前提(7.6%)を大幅に上回る8.5%に達するとの見通しを示した。これによりギリシャのデフォルト懸念が強まり、欧州金融機関の信用不安問題に拡大。リスク回避の動きから主要国株価が軒並み下落すると、4日にランド/円は先月23日以来の安値水準となる9.17円まで下落。ただ、引け間際に一部で、「EU(欧州連合)の財務相らは域内の銀行のための緊急の追加支援策として、資本増強で協調する手段を検討している」と報じられた事が好感され、NYダウ平均が400ドル近く反発してプラス圏に上昇すると、ランド/円は反発した。

②

12日、早朝に否決されたスロバキアでの欧州金融安定ファシリティ(EFSF)機能拡充案について、同国最大野党の党首が「遅くとも14日までに拡充案を承認する事で各党が合意」と伝えた事から、市場では同案承認に対して楽観的な見方が広がり、欧米株が上昇。ランド/円はこの流れを受け、一時9.94円まで上昇した。

③

19日、NYダウ平均の軟調推移を背景にランド/円は弱含みで推移。なお、南ア9月消費者物価指数は前年比+5.7%、南ア8月実質小売売上高は前年比+7.1%となり、いずれも予想(+5.6%、+5.2%)を上回った。これらを受け、次回11月に予定されている南ア準備銀行(SARB)金融政策発表にて利下げに踏み切るとの見方は後退したものの、市場の反応は薄かった。

④

20日、「独政府はEU首脳会議の延期の可能性を排除しない」との報道を受けて欧州の債務問題解決に不透明感が強まると、リスク回避の動きからNYダウ平均が急落。ランド/円は9.29円の安値を記録。

⑤

27日早朝、ユーロ圏首脳会議の声明草案として「EFSFは数倍のレバレッジを計画」等が伝えられた事や、同日の東京市場で、ユーロ圏首脳会議にて、債務危機の包括的対応策が合意した事を受け、主要国で大幅な株高が進行すると、ランド/円は一時9.84円まで上昇した。

⑥

31日、政府・日銀による円売り介入を受けてドル/円が4円近く急騰すると、連れてランド/円は9月19日以来となる10.13円の高値をつけた。なお、南ア9月貿易収支は25億ランドの黒字と予想(10億ランドの黒字)よりも黒字幅が大きかったものの、市場の反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

10月のランド/円相場は9.17円～10.13円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.3%の上昇(ランド高・円安)となった。月初に安値をつけた後は緩やかな反発が続き、31日の円売り介入も重なると、ランド/円は一時10円台に乗せる場面が見られた。

11月のランド/円は、後述の2つの問題を中心に、これらの反応を受けた主要国の株価動向が相場を左右しそうだ。第一に、現状では欧州の債務不安がくすぶっている点である。たとえばギリシャ支援について、ヘアカット率やEFSFの運用方法などの詳細が未定となっており、今後の火種となる可能性がある。この問題が取り上げられる場合、ランド/円はリスク回避の動きから優勢の展開が予想される。次に、米国では追加量的緩和観測が浮上している点である。緩和期待が高まる場面では主要国での株高や資源価格の上昇が予想され、ランド/円はリスクを積極的に取る動きから買いが入りやすいと見られる。

南アフリカ準備銀行(SARB)は今年10月、金融政策を発表する。先月発表された南ア9月消費者物価指数の上ブレや8月小売売上高の上昇などを背景に、(本稿執筆時点では)市場では利下げ観測が後退している様子につき、今回は政策金利以上にその際の声明にも注目が集まりそうだ。仮に声明にて南ア経済の堅調さや利上げを匂わす発言が出ればランド/円は買われやすい半面、南ア経済の停滞や将来的な利下げを示唆するようだと、ランド/円は売り優勢の展開も予想される。

その他、南アフリカでは今年1日、第3四半期の失業率が予定されている。市場予想では26.0%と前回(25.7%)からの悪化となっており、予想よりも弱い内容となる場合は利下げを予想する声が増える可能性がある。注目の注目したい。(川畑)

(予想レンジ:9.10～10.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	第3四半期南ア失業率	11/22(火)	第3四半期米GDP・改定値
11/2(水)	米FOMC(1日～)	11/23(水)	10月南ア消費者物価指数
	バーナンキ米FRB議長会見		米FOMC議事録
11/3(木)	ECB政策金利発表	10/24(木)	10月南ア生産者物価指数
	ドラギECB総裁会見	11/30(水)	第3四半期南アGDP
	G20首脳会議(～4日)		10月南ア貿易収支
11/4(金)	9月米雇用統計		米地区連銀経済報告(ページブック)
11/9(水)	10月中国消費者物価指数		
11/10(木)	南ア政策金利発表		
11/15(火)	9月米小売売上高		
11/16(水)	9月南ア実質小売売上高		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。